

WebClass

システム管理者マニュアル

v12 (Feb. 2025)

目次

目次	2
ようこそ WebClass へ	4
WebClass を利用する前に	4
動作環境	4
WebClass にログインする	6
表示言語を切り替える	6
WebClass をログアウトする	6
WebClass のコースとユーザ	7
コースに作成できる教材について	7
取り込むことができるファイルの種類	8
ユーザの種類と役割について	10
システム管理者の画面と機能	12
システム管理者メニューについて	12
お知らせを発行する	13
メッセージを送信する	14
WebClass を設定する	16
システム管理について	16
WebClass をアップデートする	18
システムオプションを設定する	19
WebClass のメンテナンス	20
変更できるアカウント情報を設定する	20
画面表示のカスタマイズ	21
機能のカスタマイズ	22
ユーザ認証の設定	26
外部システムとの連携	28
WebClass サーバの設定	30
SMTP サーバを設定する	31
LTI ツールと連携する	33
ユーザを登録する	35
ユーザ管理について	35
外部認証を設定する	35
ユーザを登録する	37
ユーザ情報を変更する	38

ユーザを一括登録する	39
ユーザリストを使ってユーザ情報を一括更新する	41
ユーザの履歴データをアカウント間で移行する	42
コースを作成する	43
コース管理について	43
コースを登録する	45
コースとコースメンバーを一括登録する	45
コース&メンバーリストを使ってコース情報とメンバーを一括更新する	48
コースのリンク集を作成する	49
教材を別のコースへコピーする	49
教材リンクを作成する	50
稼働状況を集計する	51
システム情報について	51
異常終了データを削除する	51
アクセスログをダウンロードする	52
各コースの利用状況を確認する	53
より深く WebClass を知る	54
リンク集	54

ようこそ WebClass へ

e-Learning は自由な時間や場所で学生のペースや達成度に応じた学習を行うことができる環境を提供します。そして、教材や成績の管理を自動化することができます。

WebClass は教員や学生、管理者すべてのニーズに応えることのできる日本の大学のためにつくられた e-Learning システムです。テストやアンケート、授業資料などの教材を簡単に作成でき、また成績データを管理しやすくします。

WebClass はパソコンが苦手な人でも簡単に操作できます。そして、使い慣れている Word や Excel、PowerPoint などで作成されたドキュメントファイルを取り込むことができます。そのため、教員の負担を減らすことができます。また、Windows や Mac、Linux などの環境に左右されないで、多様なニーズに合わせて教材を提供することが可能です。このマニュアルでは、システム管理者の画面での操作について説明します。

WebClass を利用する前に

まず、WebClass を利用するために必要な環境が整っているか確認し、実際に WebClass を始めてみましょう。

動作環境

WebClass のシステム管理者メニューでは、以下のブラウザをサポートしています。

なお、ブラウザの設定やプラグインなどによっては、WebClass が正常に動作しないことがあります。

- ▶ JavaScript の実行と Cookie を許可しなければいけません。また、Apple 製 OS のロックダウンモード機能では Web ブラウズに関する通信や左のような Web 技術に制限がかかるため、本機能有効にした状態での WebClass の動作は保証できません。
- ▶ リンクをクリックしてもウィンドウが開かない場合、ポップアップブロックを無効にしてください。
- ▶ スリープモードや WebClass を表示しているブラウザのウィンドウがアクティブではない場合、WebClass はセッションを更新できません。2 時間以上セッションが更新されない場合、ログアウトする場合があります。また、スマートフォンやタブレットが省電力モードの時、ブラウザなどの機能を制限します。十分充電した状態でご利用ください。

ブラウザ:

インターネットに接続している Windows、Mac、Linux パソコンから、以下のブラウザの最新版で WebClass をご利用いただくことを推奨します。

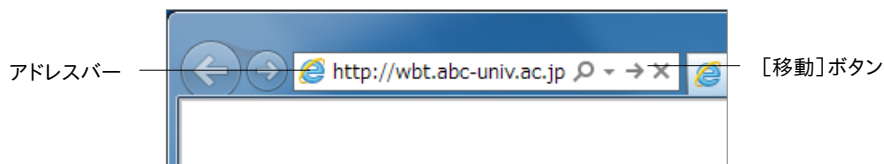
- = Firefox
- = Firefox ESR
- = Google Chrome
- = Microsoft Edge
- = Safari

ディスプレイ:

推奨するディスプレイの解像度は 1280×768 以上です。

WebClass にログインする

ここでは WebClass へログインし、システム管理者メニュー画面を表示する方法を説明します。
では、ブラウザを起動してください。



- 1 アドレスバー（ロケーションバー）に WebClass の URL（アドレス）を入力します。次にブラウザの[移動]ボタンもしくは[Enter]キーを押下してください。

➡ 「http://wbt.abc-univ.ac.jp」は例です。

- 2 「ログイン画面を表示する」リンクをクリックします。すると、新規ウィンドウでログイン画面が表示されます。



- 3 ユーザ ID とパスワードを入力して、[ログイン]ボタンをクリックします。

表示言語を切り替える

ログイン画面上部の「日本語」もしくは「English」をクリックすることで、その言語で WebClass を使用することができます。

WebClass をログアウトする

WebClass を終了するにはシステム管理者メニュー左上にある「ログアウト」リンクをクリックし、ログアウトを行います。

WebClass のコースとユーザ

WebClass ではコースごとに教材や成績データを管理します。コースとは「授業科目」や「講座」、「ゼミナール(セミナー)」、「研究室」に相当します。1つのコースを必ず1人以上のコース管理者が担当し、e-Learning 教材を作成したり、成績データを管理したりします。なお、ユーザが教材を受講するには、コースメンバーとして登録されていなければいけません。

コースに作成できる教材について

コース管理者はシステム管理者によって割り当てられたコースに5種類の教材を作成することができます。

- = **会議室:** 掲示板や Wiki、チャットはグループ学習で利用することができます。
- = **資料:** デジタル教科書を作成することができます。
- = **テスト/アンケート:** さまざまな形式で出題することができます。
- = **ユニット:** 会議室や資料、テスト/アンケート教材を組み合わせる教材です。

取り込むことができるファイルの種類

WebClass は、Word や Excel、PowerPoint といった、使い慣れているアプリケーションで作成したデータを教材に取り込むことができます。WebClass の資料教材やテスト/アンケート教材などに取り込むことができるファイルの種類は以下の通りです。

ファイルの種類	説明
Word	DOC、DOCX、DOCM 形式のみ 画像は対応していますが、音声や動画、アニメーションには対応していません DOCM 形式(マクロ有効文書)を取り込むことはできますが、変換時にマクロは取り除かれます
Excel	XLS、XLSX、XLSM 形式のみ 画像は対応していますが、音声や動画、アニメーションには対応していません XLSM 形式(マクロ有効文書)を取り込むことはできますが、変換時にマクロは取り除かれます
PowerPoint	PPT、PPTX、PPTM 形式のみ 画像は対応していますが、音声や動画、アニメーションには対応していません PPTM 形式(マクロ有効文書)を取り込むことはできますが、変換時にマクロは取り除かれます
OpenOffice.org LibreOffice	ODT、ODS、ODP 形式のみ
PDF	PDF ファイルはそのまま埋め込まれます
テキスト	TEXT ファイル、CSV ファイル(一括登録)
HTML	HTML4、5 や XHTML1 で書かれた HTML ファイル(ファイル名は半角英数字) 複数の HTML ファイルや CSS ファイル、画像ファイルを含む場合、各ファイルへのリンクは相対パスで指定し、圧縮してから取り込んでください (index.html を優先的に表示します)
LaTeX	LaTeX のソースファイル latex2html を用いて HTML に、数式は画像に変換されます
画像	BMP、JPEG、GIF、PNG 形式
動画	MP4 (H.264/MPEG-4 AVC、AAC もしくは MP3) 形式を推奨します なお、MPG、AVI、WMV、MOV は取り込むことはできますが、ブラウザやそのプラグイン、メディアプレイヤーによっては再生できない場合があります
音声	MP3、AAC (M4A) 形式を推奨します なお、WAV (WAVE) は取り込むことはできますが、ブラウザやそのプラグイン、メディアプレイヤーによっては再生できない場合があります
その他	HotPotatoes 6、SCORM1.2/2004 (3rd Edition まで)、ChemBioDraw (ChemDraw)、ChemBio3D (Chem3D) など

- ドキュメントファイルやマルチメディアファイルを開くには、アプリケーションやブラウザのプラグインが必要です。
- ドキュメントファイルは OpenOffice.org もしくは LibreOffice を用いて HTML もしくは PDF に変換します。変換精度はオリジナルの Word、Excel、PowerPoint ファイルと比べて、HTML 変換では約 70%、PDF 変換では約 90%です。オリジナルのレイアウトやフォントなどを完全に再現できるわけではありません。必要に応じて、PDF 形式で作成しファイル取り込みするか、ファイルを添付してください。
- XLS、XLSX、XLSM、ODS 形式をファイル変換するには、システムを設定する必要があります。また、PowerPoint ファイルは HTML に変換できません。
- HTML もしくは PDF 変換できるファイルの最大サイズは 20MB です。変換が伴わない場合は、最大 300MB (サーバによっては 200MB) のファイルをアップロードすることができます。

- ▶ CSV ファイルは国際規格の RFC 4180 に準拠した Excel など編集してください。CSV ファイルをメモ帳などのテキストエディタで編集する場合は、カンマ(,)とカンマの間の値にダブルクォート(")、カンマ、改行などの制御文字を含める場合、値をダブルクォートで囲みます。また、値内のダブルクォートは二重化("")します。値にエスケープ文字「¥」があると、正常に取り込めないことがあります。
- ▶ MP4(H.264/MPEG-4 AVC, AAC もしくは MP3)動画は HTTP ライブストリーミング(HLS)に対応しています。機能を有効にするには、日本データパシフィック株式会社サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。

ユーザの種類と役割について

WebClass 上で行うことができる操作は割り当てられたユーザ権限(種類)によって異なります。システム管理者はユーザ権限を適切に設定しなければいけません。

	Admin	Author	TA	SA	Observer	User	Guest
アカウント作成	○	×	×	×	×	×	×
コース登録	○	×	×	×	×	×	×
システムの保守	○	×	×	×	×	×	×
コースメンバー登録	○	○	○	×	×	×	×
資料作成	○	○	○	○	×	×	×
課題作成	○	○	○	×	×	×	×
教材受講	○	○	○	○	○	○	○
出席管理	○	○	○	○	○	×	×
出席確認	○	○	○	×	○	×	×
採点・成績管理	○	○	×	×	○	×	×
成績確認	○	○	×	×	○	○	○
コースのバックアップ	○	○	○	×	×	×	×
お知らせの発行	○	○	○	×	○	×	×
メッセージの送受信	○	○	○	○	○	○	×

まず、**システム管理者(Admin)**はユーザアカウントとコースを作成し、各コースにコースメンバーとしてユーザを割り当てます。

- システム管理者のプロフィールに学部を設定すると、学部管理者として、設定された学部のコースに対してのみ操作することができます。学部管理者は学科情報の指定やコースの設定、コース内の教材の確認、学部および学科情報が設定されたユーザ情報からコースメンバーを検索して登録することができます。なお、学部管理者はシステム全体に関する操作はできません。本機能を利用するには、日本データパシフィック株式会社 サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。

次に **コース管理者(Author)**は割り当てられたコースに教材を作成します。そして、教材を実施し、成績データを管理します。

なお、特定のコースメンバーに授業補助をしてもらうため、システム管理者とコース管理者は **TA**や **SA**へユーザのコース権限を変更することができます。TA はコース管理者の代理としてコース運営を行うことができます。また、SA は授業を円滑に進めるアシスタントとして教材を実施します。Author や TA、SA は上のコース権限が付与されています。デフォルトの設定から変更された場合、「Author(その他)」と表示されます。

オブザーバ(Observer)は教務などの学校職員が使用します。学校運営に関する連絡をWebClass ユーザに通知することができます(この時、システムオブザーバーとしてお知らせを発行します)。

ユーザ(User)はコースメンバーに登録されているコースで教材を受講することができます。公開講座などのように **ゲストユーザ(Guest)**にも公開された一部の教材は、ユーザアカウントがなくても受講することができます。

ステータスについて:

WebClass では、ユーザに以下のステータスを付与することができます。学籍などユーザの状況によって、適切なステータスを設定する必要があります。

ステータス	ログイン許可	説明
アクティブユーザ	○	ユーザは権限に従って全ての操作を行うことができます 行うことができる操作は「ユーザの種類と役割について」をご確認ください
制限ユーザ	○	制限ユーザは、WebClass コースへアクセスできなくなりますが、学習記録ビューアおよびプラグインは利用できます システム管理者やコース管理者は、制限ユーザが行ってきた WebClass での活動情報や成績などを集計することができます なお、制限ユーザは登録可能ユーザ数には計上されないため、卒業生に割り当てることができます
期限切れユーザ	×	システム管理者やコース管理者は、期限切れユーザが行ってきた WebClass での活動情報や成績などを集計することができます なお、期限切れユーザは登録可能ユーザ数には計上されません
休止ユーザ	×	成績や学習履歴、ログイン状況、アクセスログなどの情報は削除されませんが、集計から除外されます コースメンバー登録や休止ユーザ宛にメッセージ送信はできません
削除済みユーザ	×	ユーザを削除すると、アカウント情報や回答、成績を復元することはできません

システム管理者の画面と機能

システム管理者はユーザやコースを管理したり、連絡事項を通知したりします。また、必要に応じてシステムをアップデートするなどの保守を行います。この章ではシステム管理者が使用する画面や機能の概略を説明します。

システム管理者メニューについて

WebClass にログインします。すると、システム管理者メニュー画面が表示されます。この画面から WebClass を管理するために必要な機能を利用することができます。



新着お知らせタブ には、システム管理者およびコース管理者が発行した事務や教務に関する連絡事項などが表示されます。また、未読のメッセージは **新着メッセージタブ** に表示されます。お知らせおよびメッセージの詳細を確認するには、件名をクリックしてください。

メッセージ ではメッセージを送信したり、送受信したメッセージを閲覧したりできます。詳しくは「メッセージを送信する」をご覧ください。

WebClass で授業を行うには、システム管理者が **ユーザ管理** と **コース管理** でユーザとコースを事前に登録しなければいけません。

学習記録ビューア は WebClass に蓄積された学習履歴や大学での活動データを集め、成果を振り返ることに適した形に変換された情報管理体系を提供します。詳しくは「学習記録ビューア」をご覧ください。

ーア オンラインマニュアル」(<https://webclass.jp/manuals/admin/integrated-portfolio/>)をご覧ください。

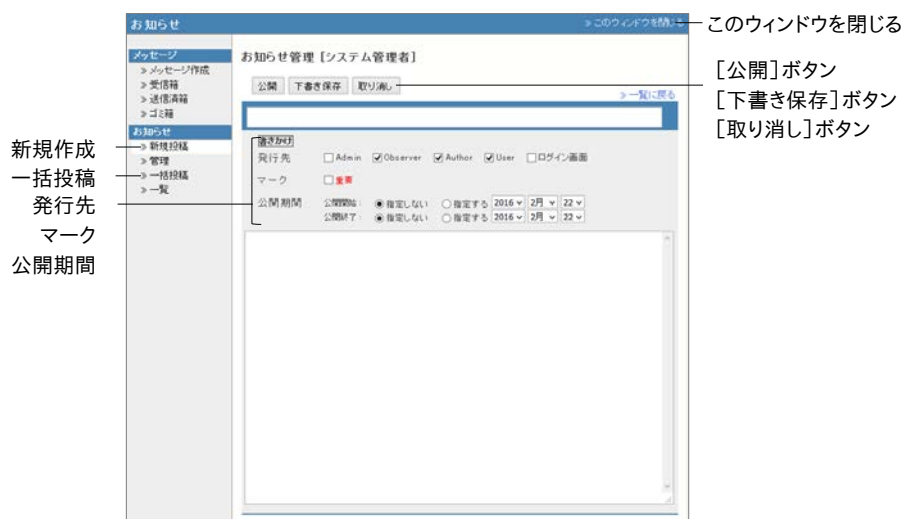
システム管理者は **システム管理** で WebClass をセットアップしたり、定期的に WebClass をアップデートしたりする必要があります。また、**システム情報** では WebClass へのアクセス状況をモニタリングすることができます。

マニュアル やユーザを一括登録もしくは削除する時に使用するサンプルファイルをダウンロードすることができます。

お知らせを発行する

システム管理者はお知らせ機能を使って、システム運営に関する連絡事項や注意事項を公開先や公開期間を指定して発行することができます。システム管理者が発行するお知らせは、ログイン画面やコースリスト画面、教材一覧画面に表示されます。

システム管理者画面上部の「新着お知らせ」タブ中にある「管理画面」をクリックします。すると、お知らせ管理画面が新規ウィンドウで開きます。



- 1 「新規投稿」ボタンをクリックし、タイトル、お知らせの本文を入力します。
- 2 「発行先」と「公開期間」を設定します。「マーク」にチェックを入れると、重要なお知らせと他を区別して表示できます。
 - 学部や学科を発行先として選択した場合、学籍情報の学部および学科が登録されたユーザへ公開されます。
- 3 「公開」もしくは「下書き保存」ボタンをクリックします。
 - 発行したお知らせはメニュー「管理」で編集および削除することができます。

お知らせを一括発行する:

CSV ファイルを使って複数のコースに複数のお知らせを一括発行することができます。お知らせ画面のメニューから「一括投稿」をクリックしてください。お知らせ一括投稿画面が表示されます。

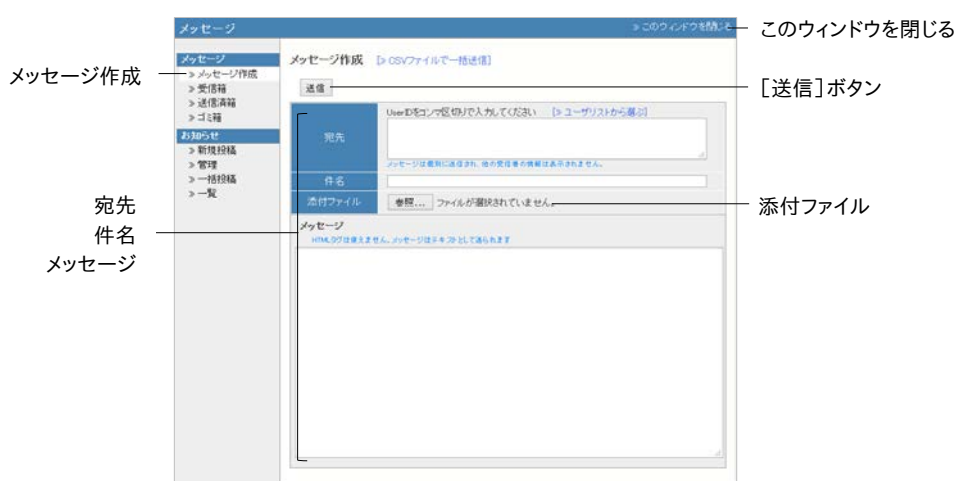
フィールド	説明	入力例
open_at	公開開始日	2011/07/15
close_at	公開終了日	2011/10/01
to_admin	システム管理者へ発行する	1
to_author	コース管理者へ発行する	1
to_user	学習者へ発行する	1
to_login	ログイン画面へ発行する	1
course_id	特定のコース ID へ発行する	s2011st5
important	重要マークを付ける	1
title	件名	
substance	本文	

🔴 CSV ファイルの 1 行目には、フィールド名を必ず入力してください。

- 1 サンプルファイルをダウンロードし、Excel などのエディタで編集します。
- 2 編集した CSV ファイルを指定し、[公開] ボタンをクリックします。

メッセージを送信する

システム管理者メニュー画面右上の「メッセージ」リンクをクリックします。すると、メッセージ画面が表示されます。この画面ではメッセージの作成や送受信、また、メッセージを管理することができます。メッセージ画面を閉じるには、画面右上の「このウィンドウを閉じる」リンクをクリックしてください。



- 1 「メッセージ作成」をクリックします。
- 2 「宛先」、「件名」、「メッセージ」を入力してください。宛先に指定するユーザ ID がわからない場合は「ユーザリストから選ぶ」を使用します。すると、簡単に宛先を指定できます。

- メッセージはテキストデータとして送信されるので、HTML タグは使用できません。
- 全ユーザへのメッセージ送信が可能であり、送信先の候補が多くなるため、ユーザリストには Author および Observer 権限のユーザのみ表示されます。User 権限のユーザ ID をメッセージ作成画面の宛先に指定することでメッセージ送信することができます。
- 複数の宛先へのメール転送で送信エラーが発生した場合、メール転送が中断されます。

3 ファイルを添付することもできます。

4 [送信]ボタンをクリックします。

メッセージを一括送信する:

メッセージ作成画面において「CSV ファイルで一括送信」リンクをクリックします。すると、画面が切り替わり、CSV ファイルを用いて複数のメッセージを同時に送信することができます。なお、前の画面に戻るには、「新規メッセージ作成」リンクをクリックしてください。

フィールド	説明
to	宛先をユーザ ID で指定します
subject	メッセージの件名を入力します
message	メッセージの本文を入力します

- CSV ファイルの 1 行目には、フィールド名を必ず入力してください。

- 1 サンプルファイルをダウンロードし、Excel などのエディタで編集します。
- 2 編集した CSV ファイルを指定し、[送信]ボタンをクリックします。

WebClass を設定する

システム管理者は、いろいろな機能を利用できるようにするために WebClass をセットアップする必要があります。この章ではメールサーバやシステムオプションの設定、システムの更新について説明します。

システム管理について

システム管理者メニューに表示される「システム管理」をクリックし、メニューを展開します。



システム管理者は WebClass のセキュリティを保つために **WebClass のアップデート** を行う必要があります。また、登録ユーザが増え、ライセンス数が不足したら、新しいライセンスを申請し、**ライセンス数の変更**を行います。

システムオプションの設定 では機能や画面表示のカスタマイズなどのオプションを設定できます。また、メールサーバを用意している場合、**メール機能設定**を行うことでユーザは WebClass からの通知をメールで受け取ることができるようになります。

定期的なバックアップの重要性:

人為的なミスやプログラムの不具合、ハードウェアの故障、災害などにより、WebClass サーバのデータが紛失することがあります。障害が発生した際に速やかにシステムを復旧させるため定期的にバックアップすることをおすすめします。

対象	教材データ	成績データ	サーバ設定
範囲	/var/www/webclass 以下	PostgreSQL の dump ファイル	/etc 以下
保存形式	実ファイル	gz	tar.gz
保管場所	ストレージサーバもしくは外付け HDD		
バックアップ方法	rsync、FTP、SCP、NFS など		
頻度	日次	日次	月次
保存世代数	1	7	1

復旧時に必要となるデータ(バックアップの対象となるデータ)は、教材および成績データ、WebClass サーバの設定ファイルです。それらのデータを WebClass が稼働している HDD とは別の HDD へ rsync などを用いてバックアップしてください。特に成績データは細かくバックアップを取ることをおすすめします。

ディスクの空き容量を確保する:

WebClass サーバのコンテンツ領域について、システム管理者メニュー画面の「システム情報」に表示される「HDD 空き容量」が 512MB 未満の時、「ハードディスクの空き容量が少なくなっています。」と表示されます。ハードディスクの空き容量が足りない場合、ログインや集計などができなくなるといったシステム障害が発生します。

不要ファイル削除 では古い一時ファイルやログファイルを削除することで WebClass サービスが稼働するために必要なハードディスクの空き容量を確保することができます。

- 不要ファイルの削除は一時的な対策です。ハードディスクを増設もしくは教材データを削除する必要があります。日本データパシフィック株式会社 サポートデスク (wcsupport@datapacific.co.jp) までご連絡ください。

一時ファイルの削除
セッションログの削除
エラーログの削除
コースメンバー一括登録ログの削除

一時ファイルの削除の「削除可能サイズの計算」ボタンや各種ログファイルの年次ボタンをクリックすると、削除されるファイル数と確保できるサイズが表示されます。問題がなければ、「削除」ボタンをクリックします。なお、完了した削除処理を取り消すことはできません。

- ＝ **一時ファイル**：ファイル取り込みや集計データの生成などの内部処理で一時ファイルが作成されます。一時ファイルはユーザが処理操作を行った時に削除されますが、残ったままとなる場合があります。3 日前より古い一時ファイルを削除することができます。
- ＝ **セッションログ**：ログインしたユーザの操作は操作履歴としてログファイルに記録されます。このログファイルは問題の原因調査や誤って削除された成績データの復元のため使用されますが、1 年前より古いログファイルは削除することができます。
- ＝ **エラーログ**：WebClass で発生したシステムエラーはエラーログとしてログファイルに記録されます。このログファイルはシステム障害や不具合の原因調査のため使用されますが、1 年前より古いログファイルは削除することができます。
- ＝ **コースメンバー一括登録ログ**：コースメンバーを一括登録した時、その処理結果と使用した CSV ファイルのバックアップファイルが保存されます。システム管理者メニュー「コース管理」>「コース&メンバーの一括登録」の画面下部「コース登録情報の履歴」を確認し、問題がなければ、削除することができます。

WebClass をアップデートする

機能追加や不具合修正などを含んだ修正プログラム（アップデートファイル）が定期的にリリースされるので、必ずアップデートしてください。

システム管理者メニュー「システム管理」>「WebClass のアップデート」を開きます。アップデートファイルを解凍せずに指定し、「登録」ボタンをクリックしてください。

- WebClass をアップデートする際は教材や成績などのデータをバックアップすることをおすすめします。詳しくは「定期的なバックアップの重要性:」をご覧ください。
- WebClass をメンテナンスモードに移行し、システム管理者メニュー「ログイン状況」から他のユーザがアクセスしていないことを確認してください。
- アップデートの際はブラウザの Proxy 設定を必ず無効にしてください。正しく更新されない場合があります。
- アップデートが完了するまで時間がかかることがあります。アップデート処理の途中で操作を行うと、アップデートが失敗するため、完了するまでそのままお待ちください。

アップデートファイルが古い場合は、警告画面が表示され、プログラムは更新されません。正しくアップデートが完了します。すると、バージョン番号が上がります。

ライセンス数を変更する:

ライセンスによって登録できるユーザ数が異なります。もし、登録可能ユーザ数が不足する場合は、日本データパシフィック株式会社 サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。当社から新しいライセンスキーファイルをお送りします。

システムオプションを設定する

システム管理者はシステムオプションを設定することで、WebClass の見た目や機能などをカスタマイズすることができます。

- WebClass の動作に影響するため、システムオプションについてよく理解した上で設定してください。不明な点は日本データパシフィック株式会社 サポートデスク (wcsupport@datapacific.co.jp) までご連絡ください。
- 機能を有効化するためにサーバ設定が必要な場合があります。日本データパシフィック株式会社 サポートデスク (wcsupport@datapacific.co.jp) までご連絡ください。

- = HLS 機能
- = 試験モード機能
- = 類似レポート検知機能 (PDF 対応)
- = 各種システムとの連携機能
- = 掲示板「投稿されたメッセージを「保留」にする」オプション
- = ルーブリックのテンプレート
- = マニュアルダウンロード画面からダウンロードできるファイル

主なシステムオプションについて説明します。システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」をクリックしてください。



システムオプションを設定後、[更新] ボタンをクリックし、変更を反映させてください。また、システムオプションを変更したことで不具合が発生していないか確認してください。

WebClass のメンテナンス

WebClass のアップデートやサーバの保守作業を行う時、トラブルを避けるためにシステム管理者以外のユーザがログインできないようにメンテナンスモードにします。「システムオプションの設定」>「Maintenance」をクリックしてください。

オプション名	設定値	説明
MAINTENANCE_MODE	0(無効) 1(有効)	メンテナンスモードではシステム管理者以外のユーザがログインできなくなります
MAINTENANCE_MESSAGE	文字列	メンテナンスモード時に表示するメッセージ

- メンテナンスモード時に表示される「MAINTENANCE_MESSAGE」は、ログアウトを促すメッセージを入力します。ただし、マルチリンガルに対応していないので、日本語と英語のメッセージを両文併記してください。

変更できるアカウント情報を設定する

ユーザ自身が設定できるアカウント情報を設定するには、システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」>「Accounts」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
DO_NOT_ALLOW_CHANGE_USERNAME	0(許可) 1(禁止)	ユーザが氏名を変更することを禁止する
DO_NOT_ALLOW_CHANGE_PASSWORD	0(許可) 1(禁止)	ユーザがパスワードを変更することを禁止する
DO_NOT_ALLOW_CHANGE_MAIL	0(許可) 1(禁止)	ユーザがメールアドレスを変更することを禁止する

ユーザがパスワードに設定できる文字を制限するため、パスワードポリシーを設定することができます。パスワードとして利用できる文字については「ユーザを登録する」をご確認ください。

オプション名	設定値	説明
PASSWORD_POLICY_MIN_LENGTH	5	パスワードの長さが最小文字数以上となるよう設定させます
PASSWORD_POLICY_NUMBER_REQUIRED	0(無効) 1(有効)	パスワードの文字列に必ず数字を含めるよう設定させます
PASSWORD_POLICY_SYMBOL_REQUIRED	0(無効) 1(有効)	パスワードの文字列に必ず記号を含めるよう設定させます
PASSWORD_POLICY_UPPER_LOWER_REQUIRED	0(無効) 1(有効)	パスワードの文字列に必ず英大文字小文字を含めるよう設定させます
PASSWORD_POLICY_NOT_INCLUDE_USERNAME	0(無効) 1(有効)	パスワードの文字列にユーザ ID を含めることを禁止します
PASSWORD_POLICY_NOT_INCLUDE_EMAIL	0(無効) 1(有効)	パスワードの文字列にメールアドレスを含めることを禁止します

画面表示のカスタマイズ

ログイン画面やコースリスト画面上の表示をカスタマイズできます。ログイン画面をカスタマイズするには、システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」>「Login」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
LOGIN_FORM	type-a type-b type-c	ログイン画面を変更する
DEFAULT_LANGUAGE	JAPANESE	ログイン画面を開いた時に使用される言語
AUTO_LANGUAGE_RECOGNITION	0(無効) 1(有効)	ブラウザの言語設定に従って自動的に表示言語が切り替わります
WELCOME_MESSAGE_JP WELCOME_MESSAGE_ENG	文字列	ログイン時のメッセージを変更する
FOOTER_MESSAGE	文字列	フッターに表示される「Powered by WebClass」を変更することができます
HIDE_GUEST_LOGIN	0(許可) 1(禁止)	ゲストユーザによるログインを禁止する
LOGIN_TOKEN_CHECK	0(無効) 1(有効)	ログインフォームでの認証でトークンチェックを行います
LOGIN_TOKEN_CHECK_BLOCK_TIME	秒数	ログインに一定回数失敗した時にログインをロックしておく時間
MAXIMUM_LOGIN_FAILURE	0(無制限) 自然数(試行回数)	設定回数以上、ログインを失敗します。すると、ブラウザを再起動しない限り、ログインできなくなります

「Semester」ではコースリスト画面に表示される時間割の表示を変更します。

オプション名	設定値	説明
FIRST_SEMESTER_MONTH	4	1学期の開始月
FIRST_SEMESTER_DATE	5	1学期の開始日
SECOND_SEMESTER_MONTH	9	2学期の開始月
SECOND_SEMESTER_DATE	20	2学期の開始日
THIRD_SEMESTER_MONTH		3学期の開始月
THIRD_SEMESTER_DATE		3学期の開始日
FOURTH_SEMESTER_MONTH		4学期の開始月
FOURTH_SEMESTER_DATE		4学期の開始日
FIFTH_SEMESTER_MONTH		5学期の開始月
FIFTH_SEMESTER_DATE		5学期の開始日
NO_OF_WEEKS_IN_SEMESTER	15	1学期あたりの週数(授業数)

- 「FIRST_SEMESTER_MONTH」と「FIRST_SEMESTER_DATE」は、必ず設定してください。

また、コースリスト画面上に表示されるお知らせやメッセージなどをカスタマイズするには、「システムオプションの設定」>「TopPage」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
SHOW_TABS_IN_COURSE_LIST	0(非表示) 1(表示)	コースリスト画面上のお知らせおよびメッセージタブを表示する
INFORMATIONS_TABPANEL_LISTNUM	空欄もしくは数字	「お知らせ」に表示するお知らせの数
INFORMATIONS_TABPANEL_UNREAD_ONLY	0(新着) 1(未読)	表示されるお知らせを「新着」から「未読」へ変更する
SHOW_SEMESTER_SWITCH_IN_COURSE_LIST	0(非表示) 1(表示)	今期の時間割のみ表示する
HIDE_SCHEDULE_TABLE	0(表示) 1(非表示)	時間割を表示する
SHOW_ALL_AVAILABLE_COURSE	0(非表示) 1(表示)	コースリスト画面にメンバー登録済みのコースをすべて表示する
SHOW_USER_CONFIG	0(無効) 1(有効)	アカウント情報の変更画面を無効にする
SHOW_USER_MANUAL	0(無効) 1(有効)	マニュアルダウンロード画面を無効にする
FAQ_URL	URL 空欄(非表示)	アカウントメニューに FAQ を追加します
LOG_VIEWER_AUTHOR_OPEN	0(非表示) 1(表示)	コース管理者のコースリストに学習記録ビューアへのリンクを表示する
LOG_VIEWER_USER_OPEN	0(非表示) 1(表示)	ユーザのコースリストに学習記録ビューアへのリンクを表示する

機能のカスタマイズ

「システムオプションの設定」>「Course」では、コース内の機能を設定することができます。

オプション名	設定値	説明
DEFAULT_MEMBER_MODE_LIMITED	0(無効) 1(有効)	コースを新規作成する時、メンバー限定モードをデフォルトとする
HIDE_IPADDRESS	0(表示) 1(非表示)	アクセスログにおいて IP アドレスを非表示にする
TEACHERS_REVIEW_COMMENT	0(無効) 1(有効)	講評機能を有効にする
USE_OPEN_SYLLABUS	0(無効) 1(有効)	シラバスを外部公開する
ALLOW_PORTFOLIO_DOWNLOADING	0(禁止) 1(許可)	ユーザ権限で解答履歴をダウンロードすることを許可する
PORTFOLIO_STYLE	「csv」もしくは「html」	ALLOW_PORTFOLIO_DOWNLOADING 有効時、ダウンロードできる解答履歴の形式
SHOW_EXAM_RSLT_USER	0(非表示) 1(表示)	試験結果を表示する

オプション名	設定値	説明
USE_PROFILE_COLUMN USE_PROFILE_COLUMN_LIST	0(非表示) 1(表示)	進捗状況一覧画面、成績一覧画面、出席状況一覧画面に学籍番号(student_id)や出席番号(class_order_no)を表示する また、入学年度(admitted_year)、ふりがな(furigana_name)、学科(dept)は出席状況一覧画面に表示できます
USE_GRADEBOOK	0(無効) 1(有効)	成績評価機能を有効にする
GRADEBOOK_OVERWRITE_ALLOWABLE_LIST	文字列	「F,G,H」のようにカンマ区切りで指定した文字列を成績評価の「上書き」として許容する
MAX_GRADEBOOK_EVALUATION_SCORE	数字	成績評価の「評価」の最大値を設定する
SHOW_EXAM_PASSING_RESULT	0(無効) 1(有効)	合格点設定時に点数の代わりに可否を表示する
ATD_SETTING_OPEN_FROM_NOW_OPTION	0(無効) 1(有効)	出席教材の設定で出席確認を現在の日時で開始する場合は有効にします 無効時はカレンダーで設定する必要があります
ATD_SHOW_REQUIRED_COUNT	0(無効) 1(有効)	User の出席状況一覧画面に「必要出席数」を表示します
ATD_STATUS_TYPE	0(点数) 1(ステータス)	出席状況を点数もしくはステータスで表示します
ATD_TITLE_EDIT_ENABLE	0(無効) 1(有効)	出席コマタイトルの編集可否を設定します
ATD_CONSIDER_FOR_STUDENT_HIDDEN	0(無効) 1(有効)	ユーザに出席確認の開始・終了時刻を表示するか設定します
ATD_MAX_DAYS_CONSIDERED_AS_P RESENCE ATD_MAX_DAYS_CONSIDERED_AS_L ATENESS	数字	ATD_SETTING_OPEN_FROM_NOW_OPTION が無効時、出席扱いおよび遅刻扱いの最大日数を変更することができます
ATD_SETTING_HIDE_EDIT_OPTION	0(無効) 1(有効)	出席設定/ログの確認画面で「編集」リンクを非表示にします
MINIMUM_SELECTABLE_YEAR_RANGE	数字	集計できるデータの期間を年で指定します
COURSE_NOTE_OPTION	0(無効) 1(有効)	ノート機能を有効にします
AUTHOR_COURSE_REPORTS_OPTION	0(無効) 1(有効)	コース管理者の「成績」メニューおよびレポート/記述式問題の採点画面のレポート一覧画面を有効にします
INFORMATIONS_DEFAULT_OPEN_NUMBER_OF_DAYS	0(無効) 日数	コース管理者がお知らせを新規投稿する際に何日後に公開終了するかデフォルトを設定できます
TRUE_OR_FALSE_STYLE_MULTIPLE_CHOICE	0(無効) 1(有効)	複数選択式で各選択肢を正誤問題として扱う「選択肢ごとに正誤を採点する」オプションを追加します

WebClass の機能を有効、無効にするには「システムオプションの設定」>「Features」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
ATTENDANCE_FEATURE	0(無効) 1(有効)	出席機能
COMPILE_QUESTION_DATABASE	0(無効) 1(有効)	問題抽出機能
EPORTFOLIO_OPTION	0(無効) 1(有効)	e ポートフォリオ機能
SCORM2004	0(無効) 1(有効)	資料で SCORM2004 を取り込めるようにする
SIMILARITY_OPTION	0(無効) 1(有効)	類似レポート検知機能
SIMILARITY_REPORT_FILE_SIZE_LIMIT	単位は MB	検知対象の合計ファイルサイズが設定値以上の時、検知を停止する
SIMILARITY_JOBS_LIST_MAX	数値	類似レポート検知機能で表示するジョブ数
SIMILARITY_RESULTS_LIST_MAX	数値	類似レポート検知機能で表示する比較結果数
TIMELINE_OPTION	0(無効) 1(有効)	タイムライン機能
LTI_OPTION	0(無効) 1(有効)	LTI 機能
LTI_ENABLE_CREATE_BY_AUTHOR	0(無効) 1(有効)	Author による LTI 設定を許可する
LTI_SCORE	0~100	LTI 教材の満点のデフォルト
LTI_REPLACE_CHARACTER_DEFAULT	0(しない) 1(する)	オプション「氏名の環境依存文字を置き換える」のデフォルト

学習カルテ機能をカスタマイズするには「システムオプションの設定」>「Carte」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
CARTE_SHOW_TEACHER_NAME	0(非表示) 1(表示)	自由記述にコース管理者が投稿した時、氏名を記録する
CARTE_COUNTER_DEFAULT	0(無効) 1(有効)	カウンタ設定をデフォルトで有効にする
CARTE_ALLOW_DOWNLOAD	0(無効) 1(有効)	学習カルテをダウンロードできるようにする

その他の挙動を変更するには「システムオプションの設定」>「Others」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
SHOW_SAVE_BUTTON_AT_TEXT_QUESTION	0(無効) 1(有効)	記述式問題に[回答を保存]ボタンを表示する
THEME_COLOR_BLUE	0(無効) 1(有効)	テーマカラーを青に変更する
ENABLE_CONTENTS_LIST_REPORT_STATUS	0(無効) 1(有効)	コース管理者の教材一覧画面に未採点レポート数を表示します
ENABLE_CONTENTS_LIST_EXEC_USERS	0(無効) 1(有効)	コース管理者の教材一覧画面に利用回数ではなくて利用者数を表示します
REPORT_GRADING_EXPORT_REPORT_FILE_NAME_USER_INFO_PATTERN	%{username}_%{realname}	レポート/記述式問題の採点画面でのファイル出力に含まれるレポートファイル名のユーザ情報を「ユーザID_氏名」から学籍番号「%{studnet_id}」や出席番号「%{class_order_no}」に変更できます
REPORT_GRADING_EXPORT_REPORT_FILE_NAME_FORMAT	USERNAME_FIRST	レポート/記述式問題の採点画面でのファイル出力に含まれるレポートファイル名の連番とユーザ情報を入れ替えます
COURSE_MEMBER_LIST_UPDATE_LOG_OPTION	0(無効) 1(有効)	コースメンバー管理画面に「メンバーリスト更新ログ」を表示する
FORCE_SHOW_IMPORTANT_MESSAGE	0(無効) 1(有効)	ログイン時にメッセージタイプが指定された Observer のメッセージを強制的に表示する
ENABLE_DRAG_AND_DROP_FILE_UPLOADING_UI	0(無効) 1(有効)	教材編集画面やレポート提出画面においてドラッグ&ドロップでファイルアップロードする
COURSE_DATA_EXPORT_OPTION	0(無効) 1(有効)	アンケート教材の結果をまとめてダウンロードする

ユーザ認証の設定

外部認証などのユーザ認証方式を用いるには、システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」>「Authentications」をクリックし、オプションを変更します。

オプション名	設定値	説明
AUTOMATIC_USER_REGISTRATION	0(無効) 1(有効)	外部認証に成功したユーザを自動的に WebClass に登録する
SELF_REGISTRATION	0(無効) 1(有効)	ログイン画面でユーザ自身にユーザ登録させる ID 自己登録機能を有効にする
SELF_REGISTRATION_PERMITTED_DOMAIN	ドメイン名	ID 自己登録において登録できるメールアドレスの条件を設定する
ALTERNATIVE_LOGIN_ID	学籍番号: 「profile.student_id」	ログイン ID としてユーザ ID 以外の ID を使用する
LDAP_USERID	属性名	ユーザ ID を取得する属性名を設定できます デフォルトは「uid」、「cn」、 「sAMAccountName」です
LDAP_USERID_FILTER	クエリ	ユーザ ID のフィルタクエリを AND 拡張します 例えば、 「(enabledFlag=enabled)(otherInfo=1)」を設定すると、「(uid=XXX)」という通常のクエリは 「(&(enabledFlag=enabled)(otherInfo=1)(uid=XXX))」で検索されます
LDAP_USERID_CASE_CHECK	0(無効) 1(有効)	LDAP はクエリで大文字小文字を区別しないため、 AUTOMATIC_USER_REGISTRATION が有効時、大文字小文字だけ異なるユーザが自動登録されることがあります 本オプションを有効にすると、WebClass は認証時にユーザ ID の大文字小文字をチェックするようになります
LDAP_LOGINID	属性名	ALTERNATIVE_LOGINID で設定されたテーブルのカラムにログイン ID を登録するための属性名です
LDAP_MAILADDRESS_REQUIRED	0(無効) 1(有効)	ログイン時、ユーザ ID をメールアドレススタイルでの入力を必須にします。無効の場合は「@」より前をログイン ID として扱い、有効の場合はログイン ID としてメールアドレスを使用します
LDAP_USERNAME	属性名	氏名を取得する属性名を設定できます
LDAP_GIVENNAME	属性名	LDAP_USERNAME が設定されていない時、属性名「sn」から姓を、「givenname」から名を取得し氏名とします
LDAP_EMAIL	属性名	メールアドレスを取得する属性名を設定できます デフォルトは「mail」、 「userprincipalname」です

- 併せて「外部認証を設定する」をご覧ください。「SELF_REGISTRATION」を有効にする際は、外部認証を設定する必要があります。

シングルサインオンを用いるには、システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」>「SSO」をクリックし、オプションを変更します。

オプション名	設定値	説明
CAS	0(無効) 1(有効)	CAS 認証を有効にする
CAS_VERSION	1	使用する CAS のバージョン
CAS_HOSTNAME	ホスト名	CAS サーバのホスト名
CAS_PORT	ポート番号	CAS 認証に使用するポート番号
CAS_URI	ディレクトリ名	CAS 認証に必要なファイルが入っているサーバのディレクトリ名
CAS_SERVER_SERVICE_VALIDATE_URL	URL	Service Validation URL の FQDN が CAS_HOSTNAME と異なる場合に設定します
CAS_AUTOMATIC_USER_REGISTRATION_BY_LDAP	0(無効) 1(有効)	AUTOMATIC_USER_REGISTRATION が有効である場合、CAS によって WebClass 未登録ユーザが初めてログインしようとした時に LDAP からユーザ情報を取得して登録する
SSLCLIENTCERT	0(無効) 1(有効)	SSL 証明書を利用したログインを有効にする
SHIBBOLETH_ENABLE	0(無効) 1(有効)	Shibboleth 認証を有効にする
SHIBBOLETH_ENVNAME_USERID	環境変数名	Shibboleth 認証が行われた際に userid にあたる Apache 環境変数名を入力します
SHIBBOLETH_SEPARATOR_USERID		SHIBBOLETH_ENVNAME_USERID の文字列から特定の記号より前を userid として用いる
SHIBBOLETH_ENVNAME_REALNAME	環境変数名	Shibboleth 認証が行われた際に realname にあたる Apache 環境変数名を入力します
SHIBBOLETH_SEPARATOR_REALNAME		SHIBBOLETH_ENVNAME_REALNAME の文字列から特定の記号より前を realname として用いる
SHIBBOLETH_ENVNAME_EMAILADDRESS		Shibboleth 認証が行われた際に email にあたる Apache 環境変数名を入力します
SHIBBOLETH_SEPARATOR_EMAILADDRESS		SHIBBOLETH_ENVNAME_EMAILADDRESS の文字列から特定の記号より前を e-mail アドレスとして用いる
SHIBBOLETH_COOKIE_SESSION_SUBSTR	文字列	Shibboleth 認証が行われた際に Cookie 名を識別するための接頭辞を指定できます
SAMLSPCERT	0(無効) 1(有効)	SAML 認証を有効にする
SAML_LOGIN_URI	URL	ログイン後のリダイレクト先 URL を設定します
SAML_LOGOUT_ENABLE	0(無効) 1(有効)	ログアウト時に SAML でもログアウトを許可する
SAML_LOGOUT_URI	URL	ログアウト後のリダイレクト先 URL を設定します

外部システムとの連携

他システムと連携するには、システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」>「External Systems」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
INLINE_SERVERS	URL、IP アドレス	設定したアドレス先の Web 教材を資料教材のフレーム内に埋め込む
DOWNLOAD_THROUGH_CSS_CHECKER	0(非表示) 1(表示)	ファイアウォールの影響で学外からファイルがダウンロードできない場合、専用のダウンロードリンクを表示する
FXLMSLINK_OPTION	0(無効) 1(有効)	富士フイルムビジネスイノベーション(富士ゼロックスブランド) 授業支援ボックスとの連携機能を有効にします
FXLMSLINK_ALLOWED_IP_ADDRESS	デバイスの IP アドレス	連携を許可する授業支援ボックスの IP アドレスをコンマ区切りで複数設定することができます
FXLMSLINK_USE_STUDENTID	0(ユーザ名) 1(学籍番号)	フォーム用紙の「学籍番号」が WebClass のユーザ名ではなく、学籍番号である場合は、「1」に設定します
FXLMSLINK_FORCE_USE_R_SEARCH_IGNORE_CASE	0(無効) 1(有効)	フォーム用紙の「学籍番号」のアルファベットを大文字小文字区別せずに WebClass へ問い合わせる
FXLMSLINK_AUTO_CREATE_CONTENT	0(無効) 1(有効)	授業支援ボックス連携教材自動生成機能を有効にすると、複合機パネルから教材を作成できるようになります
FXLMSLINK_PANEL_SHOW_COURSE_ORDER	0 (alphabetic) current newest	複合機パネル上のコース表示順を変更します 「current」の場合、今年度、年度なし順のみを名前順で、「newest」の場合、年度が新しい順で、同一年度を名前順で表示されます
FXLMSLINK_PANEL_CLASSINFO_PREFIX	0(無効) 1(有効)	複合機パネルに表示されるコース名の頭に時間割情報を省略表記します
FXLMSLINK_NOTIFY	0(無効) 1(メッセージ) bbs(掲示板)	集計結果転送機能対応の授業支援ボックスでは集計結果をメッセージもしくは掲示板に通知できます
FXLMSLINK_NOTIFY_DEFAULT_BBS_NAME	文字列	FXLMSLINK_NOTIFY が「bbs」の時、生成される専用掲示板のタイトルを「Notifications」から変更できます

- コース管理者が資料教材のページ編集画面「テキスト」に「INLINE_SERVERS」で設定したストリーミングサーバや Web ページなどの URL を入力し、ページを作成します。すると、資料教材を開いた時に自動的に動画を再生することができます。
- 連携機能の詳細につきましては日本データパシフィック株式会社 サポートデスク (wcsupport@datapacific.co.jp) までお問い合わせください。

WebClass から外部の Web ページを開くには、システム管理者メニュー「システム管理」>「システムオプションの設定」>「Links」をクリックします。

オプション名	設定値	説明
PORTAL_LINK_USER_TITLE1~5	リンク名	コースリスト画面のメニューにユーザ用リンクを 5 個まで作成できます
PORTAL_LINK_USER_URL1~5	リンク先の URL	外部リンクの場合は別のウィンドウに表示されます
PORTAL_LINK_AUTHOR_TITLE1~5	リンク名	コースリスト画面のメニューにコース管理者用リンクを 5 個まで作成できます
PORTAL_LINK_AUTHOR_URL1~5	リンク先の URL	外部リンクの場合は別のウィンドウに表示されます
PORTAL_LINK_TITLE1~15	リンク名	コースリスト画面のメニューにリンクを 15 個まで作成できます
PORTAL_LINK_URL1~15	リンク先の URL	外部リンクの場合は別のウィンドウに表示されます
ADM_USER_MNG_ADD_MENU_LABEL ADM_COURSE_MNG_ADD_MENU_LABEL ADM_SYSTEM_MNG_ADD_MENU_LABEL	メニュー名	システム管理者メニューの「ユーザ管理」や「コース管理」、「システム管理」にメニューを追加します
ADM_USER_MNG_ADD_MENU_URL ADM_COURSE_MNG_ADD_MENU_URL ADM_SYSTEM_MNG_ADD_MENU_URL	メニューの URL	システム管理者メニューの「ユーザ管理」や「コース管理」、「システム管理」にメニューを追加します

WebClass サーバの設定

「システムオプションの設定」>「Server」ではファイルのアップロードやダウンロード、WebClass へアクセスできる URL に関する設定を行うことができます。

オプション名	設定値	説明
MAX_REPORT_SIZE_LOCAL	単位は Byte	提出できるレポートファイルの最大ファイルサイズ(未設定の場合、10MB)

- Apache の設定が必要な場合があります。

「システムオプションの設定」>「Mail」ではメール通知に関する設定を行うことができます。

オプション名	設定値	説明
PREVENT_REPLY_TO_AUTOMAIL_WITH_REPLACED_MESSAGE	0(無効) 1(有効)	通知メールにメッセージ本文の代わりにログイン URL を表示する
SEND_NOTIFICATION_MAIL_WIDTH_BCC	0(無効) 1(有効)	メッセージ送信時、すべての宛先を BCC に指定する
SEND_NOTIFICATION_MAIL_WIDTH_SPECIFIC_FROM	0(無効) 1(有効)	メッセージ送信時、送信者のメールアドレスを From としてメールコピーを送信する
MAIL_BCC_MAX_RECIPIENTS	数字	SEND_NOTIFICATION_MAIL_WIDTH_BCC が有効時、1 通ごとに指定される BCC の数 値が「0」の時は全宛先を BCC に追加します
MAIL_BCC_SEND_INTERVAL	秒	SEND_NOTIFICATION_MAIL_WIDTH_BCC が有効時、分割送信されるメールの配信間隔を設定することができます
MAIL_NOT_SET_DISPLAY_NAME	0(無効) 1(有効)	メールヘッダの To、From の表示をメールアドレスのみに強制します
MAIL_CHARSET	UTF-8 (ISO-2022-JP)	メールのヘッダ「charset」および本文の文字コードを変更する
MAIL_TRANSFER_ENCODING	8bit (7bit)	メールのヘッダ「Content-Transfer-Encoding」を変更する
MAIL_SUBJECT_FORMAT_FROM_STUDENT_JP MAIL_SUBJECT_FORMAT_FROM_STUDENT_ENG	プレースホルダ	学生からのメッセージおよび学習カルテの相談欄更新時の通知メールについて、件名のフォーマットを表示言語ごとに指定します 使用可能なプレースホルダ: 件名: %{title} コース名: %{course_name} 開講曜日: %{day_of_week} 開講時限: %{class_order} ユーザ ID: %{username} 学籍番号: %{student_id} 氏名: %{realname}
SEND_MSG_COPY	0(無効) 1(有効)	有効時は常時メッセージをメール転送し、無効時は、ユーザがメール転送するかメッセージ作成時に選択できる

- メール通知を行うにはメール機能設定が必要です。デフォルトの送信元メールアドレスを設定することができます。詳しくは「SMTP サーバを設定する」をご覧ください。

SMTP サーバを設定する

お使いのメールサーバを WebClass に設定すれば、以下の時に通知メールが送信されます。

- = メッセージ受信時
- = 掲示板に新規投稿された時
- = レポートが提出された時
- = レポートの再提出が指示された時
- = 学習カルテの相談欄が更新された時
- = 学習記録ビューアのメッセージおよび通知機能

システム管理者メニュー「システム管理」>「メール機能設定」をクリックしてください。

- メール機能を利用するには SMTP サーバが必要です。また、Gmail API を使用する場合はサーバ設定が必要です。日本データパシフィック株式会社 サポートデスク (wcsupport@datapacific.co.jp) までご連絡ください。



- 「メール機能許可」を「使用許可」に設定します。任意で WebClass から自動送信されるメールの送信元アドレスを「自動送信用メールアドレス」として設定できます。また、「添付ファイルの最大サイズ」に SMTP サーバが許容する添付ファイルサイズの上限を設定します。

- メッセージに添付ファイルがあり、「添付ファイルの最大サイズ」以上の場合、通知メールのみファイルは添付されません。
- 「自動送信用メールアドレス」を省略した場合はユーザが「アカウント情報の変更」で登録したメールアドレスを送信元とする通知メールが届くようになります。
- SMTP サーバが送信元を制限している場合は「HELO ドメイン」に WebClass の FQDN を設定します。

- 2 「SMTP サーバ」に学内 SMTP サーバのアドレスおよびポート番号を設定します。
 - 🔴 SMTP 認証を用いる場合は「SMTP Auth を使用する」を有効にし、ユーザ名とパスワードを入力します。OAuth2.0 認証を用いる場合は「OAuth2.0 を使用する」を有効にし、各項目を入力後、「トークンを取得する」を選択します。認証とトークンの取得が完了すると、「トークン取得済み」と表示されます。
- 3 特定の送信先メールアドレスに対して、2 で設定した SMTP サーバとは別のサーバを用いる場合、「SMTP サーバ 2」を設定します。「宛先メールアドレスパターン」に一致するメールアドレスは SMTP サーバ 2 から通知メールが送信されます。
- 4 [適用] ボタンをクリックします。

LTI ツールと連携する

LTI (Learning Tools Interoperability) とは、LMS などと外部システムを相互連携させるために国際標準化団体 IMS Global Learning Consortium が策定した技術標準規格です。WebClass では LTI 1.1, 1.3, Advantage に準拠し、動画配信システムや Web ミーティングなどの外部システムとシームレスに利用したり、外部システムから成績などを取得したりできます。



システム管理者メニュー「システム管理」>「LTI ツール設定」をクリックし、連携する LTI ツールごとに連携設定を登録します。機能を有効にするには、システムオプション「LTI_OPTION」を「1」に設定します。他のオプションについては「システムオプションを設定する」の「機能のカスタマイズ」をご確認ください。

オプション	必須	LTI バージョン	説明
ツール名	○	共通	コース管理者が教材を作成する際にツール名が表示されます
説明		共通	LTI ツール設定画面で表示するツールの説明を入力します
LTI バージョン		共通	LTI ツールの LTI バージョンを選択します
ツール URL	○	1.0	LTI ツールから提供された接続先の URL を入力します コース管理者によるツール URL 設定を許可した場合入力の必要はありません
コンシューマ鍵		1.0	コンシューマ鍵は接続先の LTI ツールが接続元を一意に識別するための値です コンシューマ鍵が必要かどうか設定や提供方法などは LTI ツールによって異なります
秘密鍵		1.0	秘密鍵は安全な接続を確立するために必要な値です 秘密鍵が必要かどうか、設定や提供方法などは LTI ツールによって異なります

オプション	必須	LTI バージョン	説明
公開鍵の取得方法		1.3	LTI 1.3 による接続に必要な公開鍵の取得方法を選択します 公開鍵取得 URL は「公開鍵セット URL」に、ツールから提供された公開鍵は内容を「公開鍵」に設定します
ログイン URL	○	1.3	LTI 1.3 による接続を開始するための URL を設定します 未指定の場合、ツール URL が参照されます
リダイレクト URL	○	1.3	LTI 1.3 による接続完了後にリダイレクトする URL を設定します 未指定の場合、ツール URL が参照されます
コースユーザ情報の共有		1.3	LTI Advantage のサービス「Names and Role Provisioning Services」を有効化します LTI ツールがコースからユーザ情報の取得を許可します
ディープリンク		1.3	LTI Advantage のサービス「Deep Linking」を有効化します Deep Linking をサポートする LTI ツールから LTI 教材名やツール URL の取得が可能になります
ディープリンク URL		1.3	Deep Linking 接続時の URL を設定します ツールから指定があった場合は入力してください
ツールによる成績の更新		1.3	LTI Advantage のサービス「Assignment and Grade Services」を有効化します LTI 教材が LTI ツールから成績の更新を許可します
ツールの表示		共通	コース管理者が LTI 教材として利用できるようにするか選択します
カスタムパラメータ		共通	LTI ツールがカスタムパラメータを指定する場合、接続時に追加でパラメータを送信します 値を入力する時は 1 行ごとに「custom_tool_id = 1」、 「custom_tool_name = sample」のようにキーと値を入力し、指示がなければ、空欄にします
デフォルト表示形式		共通	LTI ツールを WebClass の教材画面に埋め込むか新規ウィンドウ(タブ)で表示するかを選択します
コース管理者によるツール URL 設定		共通	コース管理者による URL 入力を許可するか選択します 許可した場合、LTI 教材ごとに URL の入力が必要があり、教材ごとに異なる URL が発行される場合にチェックを入れてください

LTI 1.3 ツールと連携する場合は、LTI ツールに WebClass のクライアント ID などを設定します。設定に必要な情報は LTI ツール一覧の「詳細」ボタンをクリックして確認します。設定方法は LTI ツールのマニュアルをご確認ください。

ユーザを登録する

システム管理者は初めにユーザを登録しなければいけません。この章では、ユーザを登録および更新、削除する方法を説明します。

ユーザ管理について

システム管理者メニューに表示される「ユーザ管理」をクリックし、メニューを展開します。展開されたメニュー中の「登録/変更/削除」をクリックし、ユーザの登録/変更/削除画面を開きます。



この画面では登録されている WebClass ユーザを氏名やユーザ ID、権限、ステータス、認証方法などの **検索条件** で検索することができます。また、**条件の追加** に学籍情報を追加することでユーザを絞り込むことができます。また、追加された条件を解除するには、[x] ボタンをクリックしてください。

🔍 検索条件にはワイルドカードや or 演算子を用いることができます。

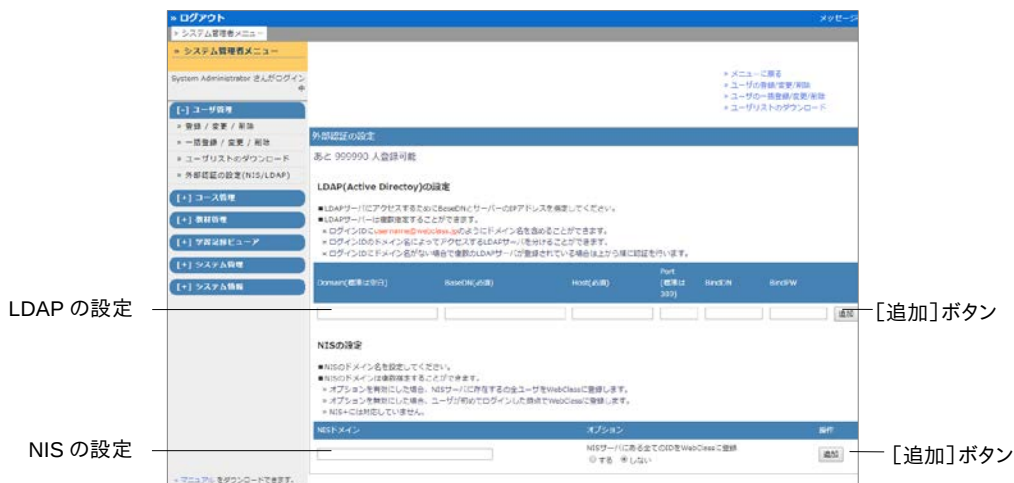
検索結果に表示する学籍情報を変更するには、**表示項目** から選択してください。また、ユーザがどのコースに所属しているか確認するには **履修科目一覧** をクリックしてください。

外部認証を設定する

WebClass は LDAP や NIS、RADIUS と連携して認証を行うことができます。これによりシステムごとにアカウント(パスワード)を発行する必要がなくなるので、管理コストを下げることで

きます。外部認証の設定を行うには、システム管理者メニュー「ユーザ管理」>「外部認証の設定（NIS/LDAP）」をクリックします。

- NIS+には対応していません。
- RADIUS などの他の外部認証方式を利用する際は日本データパシフィック株式会社 サポートデスク (wcsupport@datapacific.co.jp) までご連絡ください。
- 外部認証ユーザのパスワードは WebClass に保存されません。
- 外部認証ユーザを WebClass に登録するには、CSV ファイルを用いた一括登録を行います。詳しくは「ユーザを一括登録する」をご覧ください。



LDAP:

システムオプション「AUTOMATIC_USER_REGISTRATION」が有効時、ユーザが初めてログインした時に認証が行われ、正しく認証できれば、WebClass にユーザ ID が登録されます。自動登録されるユーザは User 権限が与えられます。Author 権限のユーザを登録する場合は、事前に CSV ファイルで一括登録してください。

設定	説明	例
Domain	LDAP サーバのドメイン名	webclass.jp
BaseDN	検索元となる DN	dc=webclass,dc=jp
Host	LDAP サーバのホスト名	210.162.218.114
Port	LDAP との通信に利用するポート番号	389
BindDN	LDAP 管理者のユーザ情報	cn=manager,dc=webclass,dc=jp
BindPW	LDAP 管理者のパスワード	samplepassword

上記の設定を入力したら、[追加] ボタンをクリックします。

- ドメイン名が付けられていない LDAP サーバは、1 個まで追加できます。複数の LDAP サーバを設定する際は、必ず「Domain」が重複しないよう設定してください。

NIS:

「NIS ドメイン」とオプションを指定し、[追加] ボタンをクリックします。なお、NIS ドメインは複数追加することができます。

オプションによって NIS サーバに登録されているユーザを WebClass に登録するタイミングを設定することができます。

- = 有効:NIS サーバ上の全ユーザを WebClass に登録されます。
- = 無効:ユーザが WebClass に初めてログインした時に登録されます。

ユーザを登録する

ローカル認証ユーザを登録するには、システム管理者メニュー「ユーザ管理」>「登録/変更/削除」をクリックします。ユーザの登録/変更/削除画面のユーザ登録でユーザ情報を入力し、[新規作成]ボタンをクリックします。

属性	必須	種類	使用できる記号	字数	備考
氏名	○	半角・全角文字	「*?」以外の記号 半角・全角スペース	60	漢字を使用できます
ユーザ ID	○	半角英数字記号	_.+-=^~`@!#\$&{ }	30	重複するユーザ ID は登録できません 大文字・小文字は区別されます
パスワード	○	半角英数字記号	_,./?;:~+*-=~ @`!"'#\$%&<>() []{} 半角スペース	30	大文字・小文字は区別されます 暗号化し、データベースに保存されます
メールアドレス		半角英数字		250	コンマ区切りで複数のアドレスを登録できます
権限	○	admin author observer user			

パスワード再発行機能を有効にする:

メールサーバを WebClass に設定し(「SMTP サーバを設定する」を参照)、ユーザアカウントにメールアドレスを登録されている場合、パスワード再発行機能を有効にします。すると、ユーザがパスワードを忘れてしまった時にユーザ自身がパスワードを再発行することができます。この機能の利用を希望される場合は、日本データパシフィック株式会社 サポートデスク (wcsupport@datapacific.co.jp) までご連絡ください。

ユーザ情報を変更する

WebClass では、ユーザ情報登録後に各項目の内容を変更することができます。また、各ユーザのステータスも変更することができます。ステータスについては、詳しくは「ステータスについて:」をご覧ください。

検索条件

表示項目

[検索] ボタン

[更新] ボタン

[制限ユーザにする] ボタン

[休止ユーザにする] ボタン

[アクティブユーザにする] ボタン

1 ユーザ ID、氏名などを「検索条件」で指定し、[検索] ボタンをクリックします。

「表示項目」にある項目を選択してから[検索] ボタンをクリックすると、検索結果に表示させることができます。

2 情報を変更したいユーザのチェックボックスを選択してから、変更したい項目の内容を書き換えます。

3 [更新] ボタンをクリックし、変更を反映させます。

ステータスを変更する:

ステータスを変更したいユーザのチェックボックスを選択してから、[制限ユーザにする] ボタン、[休止ユーザにする] ボタン、[アクティブユーザにする] ボタンをクリックすることでユーザのステータスを変更することができます。

[制限ユーザにする] ボタン、[休止ユーザにする] ボタン、[アクティブユーザにする] ボタンはステータスのみを変更します。ユーザ情報も変更したい場合は、ステータスを変更してからユーザ情報を更新してください。

ユーザを一括登録する

外部認証ユーザや多数のローカル認証ユーザを登録するには、システム管理者メニュー「ユーザ管理」>「一括登録/変更/削除」をクリックします。そして、サンプルファイルをダウンロードしてください。

また、登録済みのユーザのアカウント情報を変更するには、システム管理者メニュー「ユーザ管理」>「ユーザリストのダウンロード」をクリックし、ダウンロードしたユーザリストを編集する必要があります。



- 1 ダウンロードした CSV ファイルを Excel などのエディタで編集します。画像ファイルを登録する場合は、画像ファイルと編集した CSV ファイルが入ったフォルダを ZIP 形式などで圧縮してください。

フィールド	設定項目	必須	字数	説明
internal_id	内部 ID	削除不可		登録されたユーザに割り振られるユニークな ID
name	氏名	○	60	メニュー画面上に表示されるユーザの名前 外部認証ユーザの場合、省略すると、外部認証サーバの氏名もしくはユーザ ID 情報で登録されます
user_id	ユーザ ID	○	30	WebClass にログインするときだけでなく、メッセージやアクセス制限などでユーザを指定する時に必要です
password	ログインパスワード	ローカル認証	30	外部認証ユーザは空欄で設定してください
update_password	パスワード変更			空欄の場合、パスワードは変更されません 新しいパスワードを「password」に入力し、「update_password」に「1」を指定します

フィールド	設定項目	必須	字数	説明
email	メールアドレス		250	通知の際に使用するメールアドレス Excel ではなくテキストエディタを使って、コンマ区切りで複数のアドレスを設定する場合、設定値を「”(ダブルクォーテーション)”」で囲みます
permission	ユーザ権限	○		admin、author、observer、user のいずれかを割り当てます
expire_date	使用期限			「西暦 4 桁.(ドット)月.(ドット)日」形式でログインできる日付を指定します Author はそのユーザの学習履歴や成績を閲覧できます
restricted	制限ユーザ			制限ユーザに変更するには「1」を指定します
suspend	休止ユーザ			休止ユーザに変更するには「1」を指定します
login_id	ログイン ID		60	システムで設定している場合は、ログイン用の ID として使用できます
student_id	学籍番号		30	WebClass のユーザ ID とは別に割り当てる識別番号
student_name	学生氏名		60	別名を指定することができます
furigana_name	ふりがな		60	氏名のふりがなを入力します (name と student_name の区別はありません)
furigana_roma	ふりがな (ローマ字)		60	氏名のふりがなをローマ字で入力します
photo	写真			約 130×130 ピクセルの BMP、JPEG、GIF 形式の画像のファイル名
sex	性別		30	男/女、男性/女性、Male/Female などを入力します
nationality	国籍		60	留学生向けの設定項目です
admitted_year	入学年度		30	ユーザが入学した年度
grade	学年		30	ユーザの学年
university	大学		60	単位互換制度を用いて他大学から受講するユーザ向けの設定です
faculty	学部		60	ユーザが所属する学部名
department	学科		60	ユーザが所属する学科名
classname	クラス名		60	ユーザが所属するクラス名
class_order_no	出席番号		30	クラス内で用いる番号 桁を揃った数字以外では期待通りソートしない場合があります

- 1 行目のフィールド名 name、user_id、password、update_password、email、permission、expire_date は削除できません。
 - 設定値は CSV ファイル先頭に入力されたフィールド名によって区別されています。なお、「必須」にマークされたフィールドおよびその設定値は必ず入力してください。
- 2 作成したデータファイルをユーザの一括登録/変更/削除画面で指定します。
 - 3 「差分登録」を指定し、[登録]ボタンをクリックします。
- 登録および更新には時間がかかることがあります。

ユーザリストを使ってユーザ情報を一括更新する

WebClass に登録されているユーザの情報を一括更新もしくは削除するには、ユーザリストを用いることで簡単に行うことができます。システム管理者メニュー「ユーザ管理」>「ユーザリストのダウンロード」をクリックしてください。



全ユーザだけでなく、指定した日時以降で利用されていないユーザを抽出することができます。

ユーザ情報を一括更新する:

ダウンロードしたユーザリストを Excel などのエディタで開き、ユーザ情報を編集します。ユーザの一括登録/変更/削除画面でユーザリストを指定し、「上書登録」で登録します。

- フィールドのデータを変更した場合、新しく入力されたデータでユーザ情報が上書きされます。そのため、password を除きデータを削除した場合は、そのフィールドのデータは画面上では空欄で表示されます。

ユーザを一括削除する:

ダウンロードしたユーザリストから削除しないユーザを取り除きます。ユーザの一括登録/変更/削除画面でユーザリストを指定し、[削除] ボタンをクリックします。すると、ユーザアカウントが削除されます。

- ユーザの成績データや学習履歴なども削除され、復元することはできません。

ユーザの履歴データをアカウント間で移行する

ユーザの履歴データ移行ツールは、例えば、学部と大学院で別々に作成されたアカウントを 1 つのユーザ ID に統合することができます。

ユーザの履歴データを移行するには、システム管理者メニュー「ユーザ管理」>「ユーザの履歴データ移行」をクリックします。

移行元のユーザ ID が持つコースメンバー情報や学習履歴などの履歴データが移行先のユーザ ID に紐付け直します。

- 移行元のユーザ ID のメッセージは移行先に統合できません。
- 移行後、移行元のユーザ ID は削除されます。

ユーザ ID 入力フォーム

[移行するユーザを確認する] ボタン

実行ログ

1 入力フォームに移行元ユーザ ID、移行先ユーザ ID の順番で、カンマ(,)やスペース、タブ文字で区切って入力します。

- 重複するユーザ ID を統合するには、移行元のユーザ ID を一度別のユーザ ID に変更する必要があります。

2 [移行するユーザを確認する] ボタンをクリックし、移行するデータを確認します。

3 問題がなければ、[移行処理を実行する] ボタンをクリックします。

- 過去に実行された移行処理結果は「実行ログ」からダウンロードすることができます。

コースを作成する

システム管理者は行われる授業ごとにコースを作成しなければいけません。この章では、コースを作成および削除する方法を説明します。

コース管理について

システム管理者メニューに表示される「コース管理」をクリックし、メニューを展開します。展開されたメニュー中の「登録/変更/削除」をクリックし、コースの登録/変更/削除画面を開きます。

ログアウト
学部・学科の登録・変更・削除
新規作成
登録/変更/削除
コース&メンバーの一括登録
コース&メンバーのダウンロード
コースへのリンク
コースへのリンク
教材のコピー

この画面ではコースを新規作成したり、既存のコースを削除もしくはコース情報を編集したりすることができます。既存のコースを操作するには、学部学科名や時間割情報、コース名やコースID、コース担当者などの検索条件を指定し、[コース検索]ボタンをクリックして該当するコースを表示させてください。なお、検索条件にはワイルドカードや or 演算子を用いることができます。「学生として見る」から学生モードとなって User 権限での教材の表示状況を、また、「先生として見る」からコース管理者モードとなって設定や成績を確認することができます。

学部学科設定をする:

学部学科を設定することで学部や学科ごとにコースを使用することができます。「学部・学科の登録・変更・削除」をクリックしてください。学部学科を追加する場合、「新しい学部名」もしくは「新しい学科名」に学部もしくは学科名を入力して[追加]ボタンをクリックします。また、学部もしくは学科名を変更する場合は、一覧から現在の学部学科名を選択して上書きし、[更新]ボタンをクリックします。なお、コースリスト画面に表示されるコースは名前順に並びますが、学部および学科の順番は[上へ]・[下へ]ボタンで変更できます。

コースを非公開にする:

[このコースをロック]ボタンをクリックします。すると、ユーザとゲストユーザは、成績データを除く、そのコースに作成されたすべての教材を利用できなくなります。

- ロックされたコースは、コース管理者権限で利用することができます。

ロックされたコースを表示

[このコースを公開] ボタン

[このコースを削除] ボタン

なお、ロックされたコースを表示するには、「ロックされたコースを表示」ステータスを選択してください。[このコースを公開]ボタンをクリックします。すると、ロックが解除され、コースが公開されます。また、[このコースを削除]ボタンをクリックします。すると、コースに記録された学習履歴やログも含めて削除されます。

- 間違って削除してしまったコースは、復元することができます。日本データパシフィック株式会社 サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。

コースを作成する

データファイル
メンバーリスト
新規登録/更新

🔴 コース ID が空欄で作成します。すると、自動的にコース ID が割り振られます。

併せてコース管理者マニュアル「コースメンバーを登録する」をご確認ください。

45

1 ダウンロードした CSV ファイルを Excel などのエディタで編集します。

フィールド	設定項目	必須	説明
course_id	コース ID	△	重複するコース ID は登録できません 空欄の場合はランダムな英数文字列を自動的に割り振られます
lock	コースをロックする		コースをロックするにはカラムに「1」を指定し、解除するには空欄にします
delete	コースを削除する		コースを削除するにはカラムに「1」を指定します
member_restriction	メンバー限定モード		登録したメンバー以外がコースを利用できないようにするには、カラムに「1」を指定します
level1	学部名		
level2	学科名		
year	開講年度		
semester	学期		
day_of_weekN	曜日		時間割に最大 3 コマまで設定できます
class_orderN	時限		時間割に最大 3 コマまで設定できます
course_name	コース名	○	重複するコース名は登録できません
course_name_en	コース名(別表記)		英語表示で表記されます
course_memo	コースの説明		
(course_memo 以降の列)	コースメンバー	コース管理者のユーザ ID	メンバー登録するユーザ ID を末尾の各カラムに 1 つずつ入力します(1 ユーザごとにコンマで区切る) コース権限はユーザ権限に従って設定されます

- 設定値は CSV ファイル先頭に入力されたフィールド名によって区別されています。
- 新規登録の際は「必須」にマークされたフィールドおよびその設定値は必ず入力してください。

2 作成したデータファイルを指定します。

3 「メンバーリスト」で「現在のメンバーリストに追加/更新」を選択し、[登録] ボタンをクリックします。

コースメンバー一覧表からメンバーを登録もしくは削除する:

システム管理者メニュー「コース管理」>「コース&メンバー一括登録」をクリックし、コース&メンバー一括登録/変更画面を開いたら、「A.一覧表から選択する場合」にある「一覧表を開く」リンクをクリックします。

- 登録済みのコースに対してコースメンバーの追加登録および削除を行います。

コースメンバー一覧のダウンロード

The screenshot shows a web application for managing course members. At the top, there's a title 'コースメンバー一覧表' and a note about course deletion. Below the title are search filters for 'Courses (row)' and 'Users (line)'. The 'Courses (row)' filter includes fields for '科目' (Subject), '曜日' (Day), and '時間' (Time). The 'Users (line)' filter includes fields for '氏名' (Name) and 'ユーザID' (User ID). Below the filters is a table with columns for 'No.', '氏名' (Name), 'ユーザID' (User ID), and checkboxes for '登録' (Register) and '削除' (Delete). The table lists 20 users, each with a unique ID and name. To the right of the table are two buttons: '再表示' (Refresh) and '更新' (Update). At the bottom right, there's a link to 'このウィンドウを閉じる' (Close this window).

このウィンドウを閉じる

[再表示]ボタン

[更新]ボタン

- 表示するコースと登録するユーザを検索条件「Courses (row)」と「Users (line)」で指定し、[再表示]ボタンをクリックします。なお、検索条件「担当者」と「コース名」、「ユーザ ID」にはワイルドカードや or 演算子を用いることができます。
- コースメンバーとなるユーザのチェックボックスにチェックが入るように修正し、[更新]ボタンをクリックします。

コース&メンバーリストを使ってコース情報とメンバーを一括更新する

年度や学期などの検索条件で指定したコースとそれらのコースに登録されているコースメンバーのリストを CSV ファイルでダウンロードすることができます。システム管理者メニュー「コース管理」>「コース&メンバーのダウンロード」をクリックしてください。



1 ダウンロードした CSV ファイルを Excel などのエディタで開き、メンバー登録するユーザ ID を末尾の各カラムに 1 つずつ入力し、保存します。

- コース ID を変更します。すると、別のコースとして作成されます。また、時間割情報などのコース情報を変更します。すると、コース情報も同時に更新されます。
- フィールドのデータを変更した場合、新しく入力されたデータでユーザ情報が上書きされます。例えば、新しく学部学科を level1 や level2 に入力し、取り込むと、新たに学部学科が画面上に追加されます。また、データを削除した場合は、そのフィールドのデータは画面上では空欄で表示されます。

2 次に先ほど保存した CSV ファイルをデータファイルとして指定し、メンバーリストの更新方法を選択し、[登録] ボタンをクリックします。

- コースメンバーを一新する場合は「古いメンバーを削除してから追加」を選択してください。それ以外は「現在のメンバーリストに追加/更新」が選択された状態で登録してください。

コース&メンバーリストを使ってコースを一括削除する:

1 ダウンロードした CSV ファイルを Excel などのエディタで開き、削除したいコースの「delete」カラムに「1」を入力し、保存します。

2 次に先ほど保存した CSV ファイルをデータファイルとして指定し、「メンバーリスト」を「現在のメンバーリストに追加/更新」に選択した状態で、[登録] ボタンをクリックします。

- 間違って削除されたコースは、復元することができます。日本データパシフィック株式会社 サポートデスク (wcsupport@datapacific.co.jp) までご連絡ください。

コースのリンク集を作成する

直接コースへアクセスできる HTML ファイルを生成することができます。システム管理者メニュー「コース管理」>「コースへのリンク」をクリックしてください。



生成するリンク集には年度や学期などの検索条件を指定して表示するコースを絞り込むことができます。

- リンク集からコースへアクセスする場合でもログイン画面での認証が必要です。

教材を別のコースへコピーする

コースに作成されたすべての教材を別のコースへコピーすることができます。システム管理者メニュー「コース管理」>「教材のコピー」をクリックします。すると、教材のコピー画面が表示されます。



- 1 検索条件を指定して「コピー元コース」と「コピー先コース」を選択します。

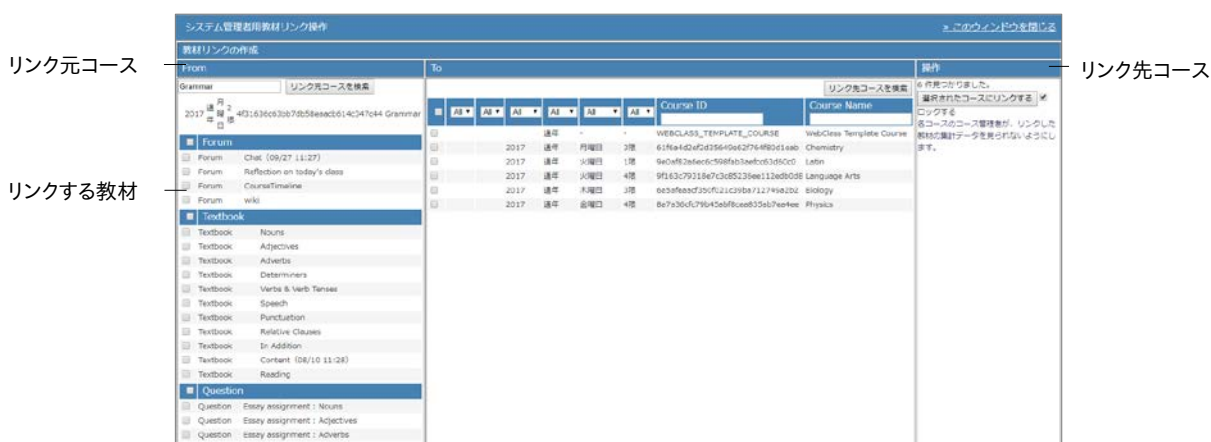
- 2 [教材をコピーする]ボタンをクリックします。

- 🔴 コピー先のコースに同名の教材が存在する場合、その教材はコピーされません。

教材リンクを作成する

教材リンクは、学期末に実施する授業アンケートのように共通する教材を各コースで実施および成績データを一元管理するために、容易に教材を各コースにリンクしたり、リンクを解除したりできます。

システム管理者メニュー「教材管理」>「教材リンクの作成/解除」をクリックします。すると、システム管理者用教材リンク操作画面が表示されます。



- 1 「教材リンクの作成」を選択し、[操作を選択] ボタンをクリックします。
- 2 「From」にコース名を指定し、[リンク元コースを検索] ボタンをクリックします。
- 3  リンク元のコース名を完全一致で入力してください。
- 3 「To」で検索条件を指定し、[リンク先コースを検索] ボタンをクリックします。
- 4 リンクする教材およびリンク先のコースを「From」および「To」から選択し、[選択されたコースにリンクする] ボタンをクリックします。

教材リンクを解除する:

システム管理者メニュー「教材管理」>「教材リンクの作成/解除」をクリックします。すると、システム管理者用教材リンク操作画面が表示されるので、「教材リンクの解除」を選択し、[操作を選択] ボタンをクリックします。

「リンク元のコース」を指定し、[リンク元のコースを検索] ボタンをクリックします。[これらのリンクを解除する] ボタンをクリックします。すると、教材リンクが各コースから削除されます。

- ④ リンク元のコース名を完全一致で入力してください。

稼働状況を集計する

システム管理者はログイン回数や利用時間などの稼働情報を確認することができます。この章では、これらの情報を確認する方法を説明します。

システム情報について

システム管理者メニューに表示される「システム情報」をクリックし、メニューを展開します。

ログイン状況 では現在 WebClass にログインしているユーザを確認することができます。また、ユーザがログインした回数や利用時間は **アクセスログ** で確認することができます。なお、コースの稼働状況を確認するには **利用状況集計** を用います。

システムログファイル では日ごとに出力された各ユーザのログファイルをダウンロードすることができます。この機能の利用を希望される場合は、日本データパシフィック株式会社 サポートデスク(wcsupport@datapacific.co.jp)までご連絡ください。

異常終了データを削除する

ブラウザの不正終了など正規の手順でログアウトしなかった場合、そのユーザ ID がログインしていることになっている場合があります。WebClass は 2 時間以上でそのようなユーザのセッションを破棄しますが、システム管理者は手動で異常終了データを削除することができます。システム管理者メニュー「システム情報」>「ログイン状況」をクリックします。

[更新] ボタン
[異常終了データの削除] ボタン



ログイン状況画面には現在 WebClass にログインしているユーザのユーザ ID や氏名、ログイン時刻が表示されます。[異常終了データの削除] ボタンをクリックし、古いセッション情報を削除します。

アクセスログをダウンロードする

システム管理者メニュー「システム情報」>「アクセスログ」をクリックします。すると、アクセスログ画面が開き、ユーザごとにログイン回数や合計利用時間が集計されます。

- 合計時間に異常終了した時の利用時間は含まれません。

集計期間
検索条件

集計期間	検索条件	ユーザID	氏名	メールアドレス	ログイン回数	合計利用時間	詳細ログ
2018年 4月 1日 から 2018年 8月 20日 まで	ユーザID: admin	admin	System Administrator	admin@webclass.jp	8	00:05:05	[ログ表示] ボタン [ログ削除] ボタン
	氏名: Professor Suzuki	author	Professor Suzuki	author@webclass.jp	1	00:02:10	[ログ表示] ボタン [ログ削除] ボタン

- 集計するユーザを絞り込むため「集計期間」と「検索条件」を指定して、[検索] ボタンをクリックします。「検索条件」にはワイルドカードや or 演算子を用いることができます。
- [ログ表示] をクリックします。すると、用いた端末の IP アドレスや利用時間、ログインおよびログアウト時刻が表示されます。
- 表の左上にある「ダウンロード」をクリックし、ローカルにログファイルを保存します。他のユーザの詳細を確認するには「ユーザー一覧形式に戻る」をクリックしてください。

[ログ削除] ボタンをクリックします。すると、該当するユーザのアクセスログがデータベースから削除されます。

各コースの利用状況を確認する

システム管理者メニュー「システム情報」>「利用状況集計」をクリックします。すると、WebClass の利用状況集計画面が表示されます。

検索条件
[表示] ボタン

結果をダウンロード

検索条件を指定し、[表示] ボタンをクリックします。集計結果には以下のような情報が表示されます。

カテゴリ	関係する検索条件	集計できる項目の説明
登録ユーザ	集計期間	指定期間内に 1 回以上ログインしたユーザを対象にユーザ数、ログイン回数、合計時間を集計します
コース利用状況	学部、学科 開講年度	検索条件に一致したコースを集計します(教材数、メンバー数) 教材数には出席教材、タイムライン(1 回以上コースにアクセスしている)、シラバス(内容を削除したシラバスも含む)も含まれます
	集計期間	指定期間中のメッセージ数、ログイン回数、合計時間を集計します
	各コースのディスク 使用量を表示する	コースが使用しているディスク容量を集計します
コースごとの教材 利用状況	学部、学科 開講年度	検索条件に一致したコースに登録されている教材数を集計します 教材数には出席教材も含まれます
	集計期間	指定期間中のアクセス数と合計時間を集計します
時間帯別ログイン 数グラフ	集計期間	ある時間帯にユーザがログインに成功した回数を、集計期間の合計で集計します
時間帯別レポート 提出数グラフ	学部、学科 開講年度	ある時間帯にユーザがレポート提出課題にレポートファイルをアップロードした回数を、集計期間の合計で集計します

なお、表示された集計結果をダウンロードするには「この結果をダウンロード」から保存してください。

より深く WebClass を知る

WebClass で授業を運用するために役立つ情報を掲載したリンクをご紹介します。

リンク集

システム管理者向け資料:サーバ管理に関する情報を中心に紹介します。

= <https://webclass.jp/documents>

先生(コース管理者)向け資料:主な機能について、やりたいことが実現できる機能を動画などで説明します。

= <https://webclass.jp/documents/course-manage>

FAQ:サポートのよくあるご質問と回答を紹介します。

= <https://datapacific.zohodesk.com/portal/ja/kb/webclass-faq>

WebClass R&D Team Blog:新しい機能や技術、Tips、不具合などの情報を更新しています。

= <https://webclass.jp/blog/>

© 2012 DATA PACIFIC (JAPAN) LTD.

本書の一部または全部を事前に承諾を得ることなく複製および転載することを禁じます。

本書に記載されたその他の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

レポート相互評価機能である「ピアレビュー機能」の開発にあたり大阪大学大学院 法学研究科の田中規久雄先生にご協力をいただきました。

システム中で使われている用語の見直し、SCORM1.2 や LOM への対応など、システム全体に渡る改善について電気通信大学 e-learning 推進センター様にご指導いただきました。

メッセージ機能や時間割表示機能など、WebClass のポータルサイト化にあたり金沢大学の総合メディア基盤センター様ならびに ICT 教育推進室様にご協力いただきました。

将来、学生が学習履歴を振り返って見られるようなデータ保存方法や年度管理方法について東京学芸大学様よりご指導いただきました。

SCORM 2004 対応にあたり、放送大学と千葉工業大学情報科学部による共同研究の成果物である ELECOA Player (<http://elecoa.ouj.ac.jp>) を改変し、使用させていただきました。

タブレットでの利用を想定した機能の開発にあたり追手門学院大学様にご協力いただきました。

画面は開発中のものにつき、実際の製品とは異なる場合があります。